

## 建設常任委員会行政視察報告書

・視察期間 平成26年10月29日(水)～平成26年10月31日(金)2泊3日

・視察先 静岡市 膜ろ過処理について  
吉川市 吉川美南駅設置事業について  
葛飾区 新宿六丁目地区地区計画について  
千葉市 プレーパーク事業について

・視察委員 委員長 和田 とよじ  
副委員長 杉山 たかのり  
委員 大川原 成彦  
" 草加 智清  
" ざこ 宏一  
" 白井 啓一  
" 田中 正剛  
" 田中 良平  
" 谷本 豊

上記の順に行政視察報告書を掲載しています。

吉岡議員は平成26年12月16日付で市議会議員を辞職されましたが、視察時には在職中であったため、行政視察報告書を掲載しています。



## 平成26年度建設常任委員会の管外視察について（報告）

各視察先の内容と、私なりに関心が高かった点を中心として、市への提言となりうる最後に記述しました総括（当局への提言）の5を含めて、以下のとおり報告を致します。

### 1. 和田島浄水場の膜ろ過処理について（静岡県静岡市）

- (1) 平成26年10月29日（水）午後2時
- (2) 内容及び本市にも提言（参考）となる点等

視察に先立ち、事前に相手先へ送付した質問項目への回答は、別紙添付資料（A）のとおりである。

静岡市は2市2町が合併した市であり、和田島浄水場がある旧清水市にある4つ浄水場の一つである。

昭和51年に和田島浄水場は建設されていて、場内に3本の井戸があり、平成19年から現在の膜ろ過装置が稼動を始めた。

膜ろ過装置には、80本の膜エレメントを使用しており、セラミック製で堅くて強く、寿命も長い。且つリサイクルに適している。手法として紫外線の処理とはしなかった。有機膜では逆洗水では破断するが、無機のセラミックは破断しない。水処理は安全でキレイという特色がある。

膜の清掃は、逆に洗水（送水）して、圧力で不純物を飛ばして処理している。しかし、井戸水なので泥等の不純物は少ない。同じ清水区にある谷津浄水場（処理能力50,000トン）は表流水なので、不純物が多く膜ろ過処理はしていない。

処理能力として1日当たり10,500トンの水量があるが、実際には6,000～7,000トンを生産処理している。

人口減少と水需要の減少に伴い、膜ろ過装置は浄水場と水道事業全体のダウンサイジング化のダブルダウンサイジングが可能となる施設と言える。

現在、施設は無人で、遠隔操作により過量の変化を監視しており、データは全部送信している。巡視により週4日、各回30分以上現場で確認作業をしている。

## 2. 吉川美南（よしかわみなみ）駅設置事業について（埼玉県吉川市）

- (1) 平成26年10月30日（木）午前10時
- (2) 内容及び本市にも提言（参考）となる点等

吉川市の概要。

吉川市は西に埼玉県の越谷市・草加市、東に千葉県野田市・流山市があり南に三郷市に囲まれる地理的位置にある。市域は、東西4km・南北8kmであり、22%が市街化区域・78%が市街化調整区域である。人口は69,413人であり、7万人の都市を目指している。

JRの貨物の操車場として機能していたが、昭和61年11月に廃止され、跡地の利用をどうするかが問題となっていたが、その内30haが吉川市の市域で、50haが三郷市の市域となっている。因みに三郷市側は、民間開発と予定されているものの未開発である。

平成10年度から平成11年度にかけて、93haの開発構想が決まり、その内西側の30haの操車場跡地が、新駅を中心とした新駅の設置が前提となった再開発事業である。

昭和48年に開通した武蔵野線の唯一の駅が吉川駅であり、交通渋滞があり、吉川市が新駅を設置し、機能分散を図り、駅前周辺整備、経済の活性化をしたいという市側の思惑（設置の主要な目的）と、雨風に弱い武蔵野線であったために、折り返し地点を設けたいとのJR側の思惑とが一致し、平成16年度に至って、やっと新駅を設置する要望書を、JRが受け取ってもらえる状態となった。

新駅の南側にURが開発していた土地が、既に「吉川美南」という言葉を使用していたので、新駅にもこの名称を使用した。現在吉川駅美南地区には、5,410人（1,944世帯）が暮らしている。

市民の反応、期待度は利用できる駅施設の設置要望が多数あり、地元住民との折衝においても住民とのトラブルはない。

乗降客数の変化についても、当初1日2,000人の利用であったが、現在では5,000人を超えており、JR予想値では将来23,800人になるとしている。

新駅と結ぶまちづくり計画と新たな都市施設については、複合新拠点ゾーンとして、吉川美南駅を起点とし、新たな都市施設として、駅西側に駅前交通広場、駐車場、公園を整備した。

橋上駅の自由通路にエレベーター、エスカレーターを設置し市が管理しているが、維持管理として清掃・セキュリティーの経費として年間500万円を要するが、橋上駅の課題として特に問題点はない。公共施設の設備状況は、平成25年4月の小学校の開校、公民館の併設、郵便局の設置がある。

JRとの協議に工夫した点については、JRの工事工程調整の点が苦慮し

た。また、自由通路に交付金を投入したが、そのため会計検査院の検査を受けねばならず、JRからの資料提出が難しく、この点が最も困難な問題点となった。

請願駅であることの地元市の費用負担については、決算では総額63億2,000万円となったが、その内市が負担した金額は12億7,300万円となり、自由通路に国からの交付金が3億円あり、結局残り約10億円が市の負担額となっている。

交通体系の整備のメリットは交通機能の分散にある。また観光振興への貢献度については、新駅からのハイキング、ジャズナイト、世界のビールなどの催しがあげられる。

新駅設置による効果や影響はどうか、もしくはどのように見込んでいるかについては、1年間で人口が1,260人の増となっているが、この地区での増加が市全体の増加となっており、市全体では1世帯あたり2.55人であるが、この地区では2.7人と多く、若い世代と子どもの数も多くなっている。地価も㎡単価140,000円と上昇してきている。

平成25年3月の推計では、30年後の推計として、吉川市は15歳から30歳の人口が多いまちの一つに選ばれて、「育(いく)まち」とも呼ばれる。

### 3. 新宿（にいじゅく）6丁目地区計画について（東京都葛飾区）

(1) 平成26年10月30日（木）午後2時

(2) 内容及び本市にも提言（参考）となる点等

視察に先立ち、事前に相手先へ送付した質問項目への回答は、別紙添付資料（B）のとおりである。従って、質問項目以外の点について以下に記述する。

葛飾区の概要として、特徴は川に囲まれているということである。東に江戸川・綾瀬川、西に荒川、真ん中に中川・新中川の5河川の、水と緑に囲まれている。面積34.84平方キロメートル、人口448千人。観光課にシティーセールス係がある。

新宿6丁目地区は、1917（大正6）年に設立された三菱製紙中川工場の跡地33.3haである。平成13年3月に三菱から土地が都市再生機構に譲渡され、平成16年10月には土地引渡しが行われ、平成17年2月に6丁目の地区まちづくり方針が決定されている。同年11月に地区計画の都市計画決定がなされ、平成20年2月に都市再生機構から区へ土地の譲渡が行われた。同年12月誘致大学を東京理科大学とする選定され、平成25年4月に東京理科大学が開設された。

「新宿6丁目地区まちづくり方針」では、7つの項目を定め、その中に大学誘致の実現と都市再生型公園の整備が重要である。

地区計画においては、16.9haの再開発等促進区を設け、用途地域の制限緩和がなされており、その活用について建築物の容積率の緩和、例えば、工業地域では容積率200%のところ、再開発等促進区では容積率を300%に緩和するなどである。また、第2種住居地域への転換もなされている。

まちづくりのゾーニングを行い、4つの区分が行われた。

(A) 文化・教育地区、住宅A地区

(B) 住宅B地区

(C) 都市型工場・研究地区

(D) 公園A地区、B地区

この他、複合地区も設けている。

東京理科大学は、公園B地区にあり3.6ha（将来更に0.5haを取得予定）、4学部、9学科に4,000人の学生が学んでいる。第2期の工事後には、合計6,000人の学生数となる。大学は塀に囲まれておらず、オープンスペースとなっている。

特養護老人ホームは、住宅A地区内にある。

「にいじゅくみらい公園」は、大学のまわりにあり、約7.1ha、平成25年4月に供用開始した。公園設置の主要な目的は、環境負荷の軽減と防災性

の向上である。特長は、陽避けと水場所としてパーゴラを設置している。

その他として、土地購入額は、267億円（㎡単価46万円）、整備費として18億円。国庫補助と財政調整交付金で賄っている。

住宅街区は、住友不動産が建設しているが、住宅の完成時予定数は、1600戸である。

東京理科大学の図書館は、区民も利用できるようになっている。その土地の使用料は大学側負担である。

区の平成13年に作成された都市計画マスターは、平成23年に改定され平成42年为目标年次となっている。

#### 4. プレーパーク事業について（千葉県千葉市）

- (1) 平成26年10月31日（金）午前10時
- (2) 内容及び本市にも提言（参考）となる点等

視察に先立ち、事前に相手先へ送付した質問項目への回答は、別紙添付資料（C）のとおりである。従って、事前質問項目以外で、現地での口頭による質問を中心に以下に記述する。

「子どもたちの森公園」は、都市局が特色ある公園づくりとして、例えば市長などの指示があった訳でもなく、都市局自体が発案した（この種の類似施設は四街道市にもある）。事業は8年目を迎えており、7年間は都市局が所管していたが、この1年はこども未来局に所管を移している。

但し、場所は地元の人でも分かりづらい所にある。

要した費用は、用地費で9,000万円、公園整備費が6,000万円の合計1億5,000万円である。（コンサル料は別途）

公園（市民緑地）の面積は、約4.1haで、その内3,000㎡を市が購入し都市公園としたが、残りは24件の民有地である。元々は樹林地だった。地権者も協力的で、市民により管理がなされている。

この公園は原則自己責任である。保険はかけているが、保険金は支払ったことがない。怪我をして救急車も来たことがあるが、保険金を支払った例はない。飲食物の持ち込みは可であるが、火気は公園のプレーリーダー以外は、禁止されている。

このプレーパーク事業の運営は、「わかばの会」へ委託している業務であるが、指定管理者ではない。このわかばの会の実働部隊は5人であったそうだが、その内のお一人の北村さん（女性）にお話を伺ったが、全市的に市民が利用しており、この事業への近隣住民との共有理解が深まったという。人との繋がりもできた。市のバックアップ体制があったからだとのこと。

プレーリーダーの常駐は2人で、市内の5箇所にプレーリーダーの派遣も行っている。



## 5. 総括（当局への提言）

視察先の4箇所では、質問等においても全て丁寧に対応して頂き、厚く御礼を申し上げます。

最後に4箇所の視察から得た情報の中から、本市の街づくりへの提言を総括的に簡単にまとめてみたいと思う。

- (1) 静岡市の膜ろ過装置については、人口減少社会と水需要が逡減する傾向にあつて、膜ろ過装置は施設が無人でも、遠隔操作により監視が可能であり、ろ過装置自体と水道事業全体のダブルダウンサイジング化に適している。今後、本市でも導入すべきものとする。
- (2) 吉川市美南駅設置事業については、駅が一つしかなかった吉川市の事例も、西宮市のように23の駅がある市では、余り参考にならないと考えるべきではなく、市の経済的負担額が約10億円と、大きな金額には違いないが、これによる影響・効果を考えると、大きな成果が得られている。着実なハード面での実施をより充実させ、本市も駅設置事業に限らず、まちづくりのハード施策の充実をもっと進めるべきものとする。
- (3) 東京都葛飾区の新宿6丁目地区計画については、本市でのアサヒビール工場跡地への地区計画を導入する可能性を考慮すると、どのような再開発促進区を設定するかにより、その土地を生かす真価が問われるものと言え、葛飾区は再開発促進区の内容として、大学誘致と都市公園の設置が成功しており、参考にすべきと思う。
- (4) 千葉市のプレーパーク事業は、本市よりも後年の実施であるが、樹林地をうまく活用しており、本市の街中（まちなか）での事業である「みやっこキッズパーク事業」も、実現は困難かもしれないが、もっと木々・樹木を活用する方策も検討すべきではないか。

以 上

## 委員会行政視察報告書

委員氏名 杉山 たかのり

調査の期間 2014年10月29日(水)～10月31日(金)

調査先及び調査事項 静岡市 膜ろ過処理について  
吉川市 吉川美南駅設置事業について  
葛飾区 新宿六丁目地区地区計画について  
千葉市 プレーパーク事業について

### 静岡市 膜ろ過処理について

静岡市では、清水区の和田島浄水場を視察。

全国的に水需要が急速に減少する中で、西宮市も例外ではなく、20年ほど前には6割程度を占めていた西宮市の水道施設でつくる“自己水源”はわずか7%。約93%を阪神水道・県水道から購入し、過大となった浄水場の規模縮小が課題となっている。

和田島浄水場は、膜ろ過処理を採用しており、急速ろ過(西宮市丸山浄水場で採用)のように沈でん池や急速ろ過池が不要で、狭い敷地でも整備ができ、水を貯めることがないため、安全面からも常勤職員を配置していない。全体として低コストで、一日10000m<sup>3</sup>の処理ができる。西宮でも検討の価値がある。

もちろん、和田島浄水場が取水する水の水質は、非常に良いようで、同処理法が可能なのだと思う。鳴尾浄水場の場合も、水質はかなり良いようで、可能性はある。

なお、右写真の徳利のような建物は配水池で、「愛泉蔵」と名付けられ親しまれており、水道施設を身近に感じるということから、良いアイデアだと思う。



## 埼玉県吉川市 吉川美南駅設置事業について

2012年3月に開業したJR吉川美南駅を視察。

西宮市でも今、武庫川に阪急電車の新駅設置の要望が強まっていることから、“請願駅”である吉川美南駅設置の経緯等を調査することとした。

吉川市では、もともと武蔵野操車場跡地を活用した新たな開発(当初1000ha)が検討されていたことから、JR吉川駅ともうひとつの駅を設置することとなっていた。そのため、JR東日本への新駅設置要望の提出から8年足らずで開業の運びとなった。

請願駅の問題は、要望した自治体の設置費用負担が重たいところにある。阪急の新駅設置にともない、西宮市の負担が過大にならないか、あまりに過大であれば、設置できなくなる。

JR吉川美南駅は、施設設置費用約67億円のうち約42億円を市が負担している。ただし、国から補助金3億円、鉄道運輸機構が29億円負担(新駅周辺の区画整理による地価上昇が原資)するなど、市の実質的負担はかなり軽減されている。しかし、西宮市の場合、区画整理などの手法は考えにくく、用地取得から、駅前広場、道路整備、駐輪場整備など、阪急電鉄の協力がなければ、かなりの負担を強いられることになり、厳しい状況である。



## 東京都葛飾区 新宿六丁目地区地区計画について

西宮市がアサヒビール跡地を地区計画でまちづくりをすすめるという方針に転換したことから、三菱製紙中川工場跡地を含む約 33ha の新宿(にいじゅく)6 丁目地区まちづくり方針の説明を受けた。

アサヒビール工場跡地の 3 倍以上という、かなり広大な敷地であり、5 つのゾーンに区切ってまちづくりが行われている。

その中で、文化・教育ゾーンは「文化・教育・研究・交流等の機能やそれに関連する利便施設等の導入をはかり、文化的環境と賑わいの創出を図る」と、具体的には東京理科大学のキャンパスを誘致し、地区全体のイメージを決定的にし、ある意味では“成功”したと言える。

その他のゾーンでは、中高層住宅、中低層住宅、都市型工場、生活利便複合のゾーンが位置づけられているが、広大な地区のため、このようなゾーンもやむを得ないと思う。

その他に、かなりの広さのある都市計画公園が文化・教育ゾーンを包むように有り、区の持ち出しになっているが、要求の強い公園の整備は当然だと思う。この一部に、同大学の図書館を借地で整備しているところが非常にユニーク。㎡単価 40 万円というのは、厳しいと思うが、アサヒビール工場跡地のまちづくりでも、開発者の負担分による緑化ではなく、都市計画公園の整備が必要だと思う。

全体として、都市部に見られるような乱開発は一定規制されたまちづくりになっているのではないかと思う。アサヒビール工場跡地についても、市が負担してでも、公園の整備は必要である。



## 千葉県千葉市 プレーパーク事業について

千葉市のプレーパーク、子どもたちの森公園を視察。

プレーパークとは、子どもたちが“自分の責任で自由に遊ぶ”と、大人が子どもたちの遊びを見守る場で、西宮でもキッズパークがある。

千葉市の動物園と隣接した公園で、周辺には小学校や保育所などがあり、自然を含め、設置場所としては良いと思われる。

ここでは、火を使ったり工作したりと、公園で禁止されていることも、プレーリーダーの指導、援助でできることになっている。ハードよりソフトが大切で、プレーリーダーの養成が鍵。しかし、千葉でもNPO法人が成長しておらず、今後の運営に苦労があるでしょう。

西宮でもプレーパークを増やせればと思いますが、団体や人の養成が必要であり、公園の整備とともに、人材育成に予算がいる。



## 委員会視察報告

建設常任委員会  
大川原成彦

調査の期間 平成 26 年 10 月 29 日(水)～10 月 31 日(金)

### 調査先及び調査事項

- |     |                  |
|-----|------------------|
| 静岡市 | ・膜ろ過処理について       |
| 吉川市 | ・吉川美南駅設置事業について   |
| 葛飾区 | ・新宿六丁目地区地区計画について |
| 千葉市 | ・プレーパーク事業について    |

### 感想・意見

静岡市 ・膜ろ過処理について

- ・ 静岡市は、静岡県中部に位置する政令指定都市であり、同県の県庁所在地である。駿府城下を基盤とした商業都市の旧静岡市と、特定重要港湾を擁する港湾都市の旧清水市が新設合併して誕生した市である。その市街地は、日本平を境に東西に分かれ、各々の交通拠点（高速道路 IC・鉄道駅・港湾等）は 11km 以上も離れており、完全二極都市となっている。また平成 18 年には旧蒲原町、平成 20 年には旧由比町との合併を経て、市域面積は 1412 km<sup>2</sup>となった。
- ・ 同市の水道事業は、合併前の各市町から引き継がれ、事業認可を得ている。平成 17 年には政令指定都市移行を契機に「新たな都市の明日に向かう水道」を基本理念とした「静岡市水道事業基本構想・基本計画」を策定し、将来の水道事業の施策の方向性を明らかにした。
- ・ 和田島浄水場は、旧清水市が昭和 52 年に、地下水をポンプで汲み上げ、水をきれいにして、両河内、小島、興津地区へ配水するための水道施設として最初の整備を行った。その後平成 19 年に、更なる水の安全性を目指し、膜ろ過棟を増設した。
- ・ 安全できれいな水は、この施設内の徳利型の配水池に貯蔵され、高区の水は両河内地区へ、低区の水は小島地区と興津地区へ、それぞれの配水管を通して自然の圧力で配水されている。
- ・ 処理能力は 10,000 m<sup>3</sup>/日、市内で 4 番目に大きい施設であるが、実際の配水量は 5,600 m<sup>3</sup>/日程度であり、市内の水供給量の 2.4%に相当する。運転は自動化され、谷津浄水場から遠方監視と操作を行っており、週に 4 回程度の巡視を実施している。水源は井戸であることから安定しており、停電対策としては自家発電設備で対応している。
- ・ 無機膜による膜ろ過を採用した理由は、初期の塩素滅菌処理のみの施設から、テロ対策や、クリプト対策などの安全面に対応するため導入を検討した緩速ろ過施設に必要な用地取得が不調に終わったことから、コンパクトで敷地内に設置できる膜ろ過方式の導入が決定した。
- ・ 工期は平成 18 年 9 月から 19 年 9 月、整備費は 8 億 3160 万円、維持管理にか



かる主な支出は年額、 巡視業務経費 270 万円 電気料金 1200 万円 薬品費 160 万円。

#### 吉川市 ・ 吉川美南駅設置事業について

- ・ 吉川市は、埼玉県の東南部に位置し、東に江戸川、西に中川と河川に挟まれた、自然堤防と背後湿地からなるほぼ平坦な地形となっている。東は江戸川を挟み千葉県野田市、流山市、西は中川を挟んで越谷市、草加市、南は三郷市、北は松伏町と接する。昭和 30 年旧旭村、三輪野江村、吉川町が合併し、吉川町となり、平成 8 年に市制を施行。古くは舟運で栄え、なまず料理をはじめとする川魚料理で知られ、近年では計画的な土地利用と都市基盤整備、子育て支援の充実などの街づくりを推進。平成 24 年には、武蔵野線・吉川美南駅の開業、都市計画道路「三郷吉川線」の開通で交通利便性が飛躍的に向上した。若い世代の人口流入が増えている。
- ・ 吉川美南駅設置のスタートは、昭和 61 年武蔵野操車場の廃止にさかのぼる。操車場の跡地及び周辺地域の整備に向けて、当初は「マルチポート・シティ」をコンセプトとした開発構想面積 1000ha におよぶ計画が策定されたが、その後、操車場跡地周辺一体的整備と計画の早期実現性を考慮し、平成 4 年に開発構想面積 616ha、開発コンセプト「さいたまコスモグリーン・シティ」クリーンな研究・開発と水と緑の潤いあふれる快適環境をそなえた埼玉の快適拠点都市としての開発に移行。さらに平成 5~7 年度にかけて事業実現性を勘案し、社会経済動向も踏まえ 400ha を段階的整備することとなり、その先行事業として 93ha を開発コンセプト「環境共生都市・エコヴィーユ」として、埼玉県、吉川市、三郷市、国鉄清算事業団、住宅都市整備公社、JR 東日本が取り組むこととなった。
- ・ 新駅設置については、飽和状態になりつつあった吉川駅周辺の交通渋滞の緩和や、強風・豪雨などによる武蔵野線の輸送障害の解消とともに、新たな市街地の形成は都市交通体系の整備、経済・産業活動の場の構築など、市の将来を見据えたまちづくりの核施設として、構想された。
- ・ 平成 16 年 JR 東日本大宮支社に新駅設置要望を提出、平成 19 年要望を再提出、同回答受理、平成 21 年新駅設置工事に着手、平成 24 年吉川美南駅開業となる。
- ・ 鉄道施設として橋上駅舎(鉄骨 2 階建て、上下線各 1 面ホーム、エレベーター、エスカレーター、階段)、配線形態は折り返し線施設を含む 2 面 3 線、都市施設として自由通路(東口と西口を結ぶ連絡通路)、エレベーター、エスカレーター、階段を有す。
- ・ 施設設置費用は、鉄道施設、都市施設として 63 億 2 千万円(JR 24 億 6 千万円、吉川市 38 億 6 千万円)、駅設備改修工事として 3 億 7 千万円、電気通信設備移設工事として 1300 万円となっている。
- ・ 開業後は、駅周辺に一体的に整備された住宅街に毎年 1000 人前後の人口が増加している。

## 葛飾区 ・新宿六丁目地区地区計画について

- ・ 葛飾区は、東を江戸川、西を荒川・綾瀬川、北を大場川・小合溜に囲まれ、中央部に中川・新中川が流れる水郷都市。都内唯一の水郷公園の水元公園、映画で有名な柴又帝釈天や矢切の渡し、堀切菖蒲園等がある。「キャプテン翼」主人公の大空翼、「こちら葛飾区亀有公園前派出所」の両津勘吉、「男はつらいよ」の車寅次郎と地元ゆかりのキャラクターで町おこしを行う。昔ながらの路地がめぐる街並みが残る一方、防災に強い街づくりに向けて課題解決を区民、事業は、区の協働を柱に推進。
- ・ 葛飾区は、三菱製紙(株)中川工場が北上への移転発表を受けて、平成 11 年「葛飾区緑とオープンスペース基本計画」、平成 13 年の「都市計画マスタープラン」、平成 17 年の「葛飾区基本計画」から、北部地域の街づくり基本方針を持続的に発展させ、平成 21 年「葛飾区新宿六丁目地区まちづくり方針」を策定した。目標として 新たなにぎわいの創出に暮らしの質を豊かにするまちづくり 市域の個性を活かし育むまちづくり 新たな文化を創り出す拠点づくり、を掲げ、方針として 新たな生活拠点の形成 良好な住環境の形成 地域の防災機能の向上 個性と魅力ある街並みの形成 地域参加型の街づくりの推進 大学誘致の実現 都市再生型公園の整備を挙げた。
- ・ 整備の対象となった地区は、都心より直線距離で約 13km、JR 常磐線金町駅より約 800m に位置し、面積は約 33.6ha、従前の主な土地利用状況は工場跡地約 18.2ha、工場・研究所約 12.7ha、道路・神社など約 2.7ha。
- ・ 当該地域の再開発事業にあたり、葛飾区は「再開発等促進区を定める地区計画」を策定し、まとまった低・未利用地の転換を円滑の推進するため、都市基盤整備と建築物等との一体的な整備に関する計画に基づき、事業の熟度に応じて市街地のきめ細かな整備を段階的に進めることとした。都市の良好な資産の形成に資するプロジェクトなどを誘導することにより、都市環境の整備・改善及び良好な地域社会の形成に寄与しつつ、土地の高度利用と都市機能の増進を図ることを目的として検討を進めた結果、「大学の誘致構想」をリーディングプロジェクトとして位置づけ、大学の誘致活動を進め、平成 20 年に東京理科大学を誘致大学として選定した。
- ・ 事業規模は 267 億円、UR を中心に開発が進められ、整備区域のゾーニングとして、文化・教育ゾーン、生活利便複合ゾーン、中高層住宅ゾーン、低中層住宅ゾーン、都市型工場・研究所ゾーン、都市計画公園に区分された。水と緑のネットワークを活かしながら、防災機能を併せもち、建築物の高さ制限の適用を除外されている地域のランドマーク的な建築物として、民間開発によるタワーマンション(高さ 128m 37 階)を整備。大学の施設にも通常の容積率 200%を再開発等促進区による緩和により 300%を適用している。

## 千葉市 ・プレーパーク事業について

- ・ 千葉市は県のほぼ中央部、東京から約 40km に位置し、戦後都市基盤の整備が行われ、東京湾の一大工業都市に発展。臨海部の開発や大規模ニュータウン



の造成などにより、人口が増加、平成4年に政令市に移行。市域には多くの国道や高速道路が集まり、また県内鉄道網の要となっている都市である。昼夜間人口比率は97.5%と首都圏の中では高く、東京のベッドタウン的機能を持ちながらも、支店経済都市として東京だけに依存しない独自の経済圏を形成している。

- ・ 千葉市のプレーパーク「子どもたちの森公園」事業は、平成9年の「子どもたちのワンダーランド基本構想」から10年をかけて準備され平成19年に開設された。市内源町地区に子どもたちと自然をテーマにした特色のある公園整備との方針と、市民参加の手法によるとの方針から、研究が進められ、地域住民・学識経験者・市職員からなる「子どもたちの森をつくる会」並びに、地権者・市職員からなる「計画地を検討する会」の二つの団体が発足し、議論が続けられてきた。
- ・ 平成17年には約3000㎡の用地買収、18年には公園施設の整備を行って、公園としての整備を完了した。また公園づくり、運営にあたる市民団体として「自然遊びわかばの会」が発足し、19年より市が同団体に委託する形で、プレーパーク事業の運営が開始された。
- ・ 初期投資費用は総額約2億円で、内訳は用地買収費約9千万円、不動産鑑定料約120万円、公園整備費約6千万円、運営システム構築委託等約4千万円であり、運營業務委託料は年間約440万円、開園日は238日/年、開園時間は10時～17時、プレーリーダー2名が着任する。
- ・ 「子どもたちの森公園」は千葉市の特色ある公園づくりとして整備されたプレーパークで、子どもたちが自然の中でのびのびと遊び、学ぶことができる場として、また子どもたちの居場所として活用されており、市民と協働して今後も恒久的に運営していきたいとしている。
- ・ 市民からの評価はおおむね良好であるが、利用者数の拡大はみられない。今後の課題はプレーリーダーの育成、人材確保であり、市内大学等へのPRを積極的に行っている。

以上

# 委員会行政視察報告書

委員氏名 草加 智清

調査の期間 平成 26 年 10 月 29 日(水)～10 月 31 日(金)

静岡市 膜ろ過処理について  
吉川市 吉川美南駅設置事業について  
調査先及び 葛飾区 新宿六丁目地区地区計画について  
調査事項 千葉市 プレーパーク事業について

## 静岡市 膜ろ過処理について (和田島浄水場)

まず、静岡市水道事業の概要と現況についてですが、事前の質問項目の回答どおり、浄水場の総数は 12 施設あり、西宮市との大きな違いは、自己水源率が 100%ということです。

今回、視察した和田島浄水場は静岡市内で、4 番目に大きい施設 (10,000  $\text{m}^3$  < 日) ですが実際の配水量は約 (5600  $\text{m}^3$  < 日) 程度だそうです。市内の水供給量の実績は、平成 25 年度の実績では 2.4%程度である。(ちなみに静岡市の 1 日平均配水量は約 229,000  $\text{m}^3$  < 日)

市内で最大の浄水場は谷津浄水場で 99,600  $\text{m}^3$  < 日の処理能力があり、この谷津浄水場から、遠方監視と操作を行っており、一週間に 4 回程度の巡視を実施している。つまり自動化の達成と遠隔操作が可能である。

危機管理と災害時の水源確保についての対策ですが、停電対策としては、自家発電設備で対応しており、水源が井戸であるため、安定しているということで、環境的に非常に恵まれています。

和田浄水場の位置づけとしては、興津川流域の配水を担当している。

膜ろ過の選定と経過について、一番、監視の高かった急速ろ過でなく無機膜による膜ろ過を採用した理由については、平成 18 年当時の和田島浄水場は、浅井戸 2 井から取水し、塩素滅菌処理のみの浄水場であり、緩速ろ過施設の導入を検討していたが、用地所得の行き詰まりから整備が遅れていた。この用地所得の行き詰まりの件は、西宮市なら有り得るようですが、ある意味少

し意外でした。話を戻しますが、テロ対策やクリプト対策などの安全面から早急な対応が求められており、浄水方法の変更許可を得て用地所得が不要で現在の敷地内に設置できる膜ろ過方式の導入を決定したということです。また、無機膜については、平成 18 年 6 月から 8 月にかけて「和田島浄水場膜ろ過浄水処理施設検討委員会」を 6 回開催し、結果的に無機膜に決定したということでした。

次に他の急速ろ過と比較してのメリットについて（コンパクト化・省力化・効率化等）ですが、当時の検討資料では、建設費及び維持管理費の面で膜ろ過が有利であったということです。整備費・維持管理費等のコスト面は、工期は、平成 18 年 9 月 28 日から平成 19 年 9 月 30 日。

請負代金は、831,600,000 円。

維持管理に係る主な支出は、 巡視業務に係る経費 2,667,686 円（H26）  
電気料金 11,912,372 円（H25 場水ポンプを含む）

薬品費 1,614,858 円（H25）です。

耐塩素性の病原生物対策としての紫外線処理については、平成 18 年当時は厚生労働省の認定が下りていなかったため、検討していなかったが、その後平成 19 年 4 月には認定された。

当時、技術として初めての膜ろ過導入であり、詳細についての問題点は不明な点も多かったらしいが、現在では特に問題はないということです。

今後の水道事業の方向性、課題については、西宮市と同じで、給水戸数や 1 人 1 日平均排水量の減少などにより、今後の水需要は減少傾向が継続すると予想されており、施設の更新時期に併せた統廃合や小規模化等が求められています。施設統廃合に係る計画の実施については、更に時間を要するものとしている。

最後に、水需要減少傾向での浄水場のあり方についてですが、静岡市の取水量は約 370,000 m<sup>3</sup><日でその内訳は、

【内訳】 地下水 約 250,000 m<sup>3</sup><日（約 68%）

表流水 約 120,000 m<sup>3</sup><日（約 32%）

浄水施設の処理水量は、約 183,000 m<sup>3</sup><日です。

その他、井戸で揚水し消毒をし、送水している施設の排水量が、約 186,000 m<sup>3</sup><日あり、合計 369,000 m<sup>3</sup><日の排水能力を有している。

数字的には施設能力に余裕があるように思われるが、特に表流水を水源とする施設について豪雨や悪天候時には、濁度の上昇に伴う一時的な取水停止や取水量的に施設保有能力を勘案すると現有能力を確保していくことが適正なものとして認識されている。

## 吉川市（埼玉県） 吉川美南駅設置事業について

最初に駅の設置目的ですが、飽和状態になりつつある吉川駅周辺の交通渋滞の緩和や、強風・豪雨などによる武蔵野線の輸送障害の解消。新たな市街地の形成や都市交通体系の整備。経済・産業活動の場の構築など、市の将来を見据えたまちづくりの核施設として、【吉川美南駅】を設置した。

平成16年7月26日にJR東日本大宮支社に新駅設置要望を提出したが、これまで到るまでには、要望書すら受けて貰えなかったということでした。約8年の経過を経て、平成24年3月17日に吉川美南駅が開業している。メインコンセプトは「自然と人と共に生きる駅」とのつながり「R屋根」と「葉」をイメージした開口により、森と丘を表現している。

この吉川美南駅も景観性のあるイメージどおりの駅で大変素晴らしかったのですが、駅の近辺に埼玉県初の【景観協定認定】を受けた住宅街があり、時間の関係で車に乗車したままでの視察でしたが、駅同様、実際に見ることができた。美しさを高めるためのルールがあり、資料を参考に例を少し挙げると、

瓦屋根・街区の印象をあざやかに演出するオレンジ色の瓦屋根を全邸に採用し、統一感が街の美しさを創り出している。

外壁・モルタルとサイディングの2種類を採用し、上質な街並みを演出している。

フェンス・敷地と道路の境界には、景観を壊すことなく、開放感もある鍔物調のフェンスを設置。

夜も街区全体を明るくすることで、安全性と防犯性を高める「灯りのいえなみ協定」を実施。暗くなると自動点灯するセンサー付きの照明により、明るい街並みを実現。植栽を明るく照らし出すガーデンライトやブラケットが外壁を彩り、夜間の景観を素晴らしいものになっている。

駅と街並みも含めて、これからの若いまちとしての伸びていくことが大いに感じられる駅と街並みであった。大変、印象に残る。

全国的に少子高齢化が進む自治体が、大半を占める中で全国の中で、これから人口が増えていく15自治体の中に、吉川美南駅（吉川駅から約1.7km・新三郷駅との中間点）が存在するこの芸術と文化のあるまち吉川市が含まれているという説明がありましたが、なるほど納得させられる。

説明を受けた市立美南小学校には、美南地区公民館・美南子育て支援センターが同じ敷地内に併設されており、繰り返しになりますが、これから、人口的にも増えていく若い人の世帯数が多い、市の将来を見据えたまちづくりの進んでいる駅であり、まちでした。

## 葛飾区 新宿六丁目地区地区計画

新たなにぎわいの創出

暮らしの質を豊かにするまちづくり

地域の個性を活かした住むまちづくり

新たな文化を創り出す拠点づくり

この4つの重要項目である【まちづくり方針（目標）】を掲げて、【都市計画マスタープラン】の中で、将来都市構想を「分節型・多核連携型の都市構造」とし、並立する都市機能集積拠点（駅周辺）や水と緑の拠点（文化・レクリエーション、アメニティ拠点）を道路や鉄道による交通系ネットワーク・水や緑の自然系ネットワークで結び有機的に連携させていくことを基本としている。その中で、新宿6丁目地区は「文化・レクリエーション拠点」としての位置づけされている。大学を中心とした住宅・文化・教育・医療福祉など複合的な都市機能の導入と合わせ、葛飾にいじゅくみらい公園を核とした良好な住環境の形成と防災性の向上を図るとしている。平成17年11月に「大学の誘致構想」をリーディングプロジェクトとし、平成20年12月に東京理科大学を誘致大学として選定、平成21年3月に大学と基本協定を締結し、平成24年にオープンしているが、素早く一年後の平成25年5月には「震災火災時の避難場所」としてこの大学の一帯約35・6haが指定されている。このように防災の観点から、まちづくりの方針（防災機能に関する方針）としての位置づけがされているのが、素晴らしい。計画の（メリット）としては、地区全体を一体的に捉える事ができ、統一的なコンセプトでの開発誘導が可能。歩道状空地や広場などを都市計画的に位置付けることができ、再開発促進地区内の街区では公共空地も義務化されるため、良好な住環境形成の実現が可能となるとしている。（デメリット）として再開発促進地区内の街区で建築を始める場合、事業者から自治体に企画提案書を提出し、新たに地区整備計画を策定、地区計画を変更（都市計画変更）する必要があり、着工までに一定の時間がかかるとしている。新宿地区のまちづくりの将来像として賑わいと活力ある広域複合拠点の形成と誰もが安心して暮らせるまちとしての取組みを説明頂きましたが、それはそれで理解は出来ますし、勉強になりましたが、葛飾区役所に入る前のお昼の時間の限られた時間の中、区役所周辺を徒歩で見て回った勝手な、無責任な感想としては、昭和の香りが漂う今のままの葛飾の街並み（人情都市かつしか）をこのまま残して欲しいと思うほど愛着を感じた。

## 千葉県 プレーパーク事業について（子どもたちの森公園）

市役所には寄らず、直接「子どもたちの森公園」に向かいましたが、当日の天気が悪く雨模様だったので、子供たちが誰も遊んでいない公園を視察することになると思っていました。予想に反して大勢の幼稚園児達が来ていたので、自然と触れ合う子供たちのありのままの姿を視察出来たのが良かった。この「子どもたちの森公園」の運営は、誰もがのびのびと遊べる（遊び場）が欲しいと思った地域の大人たちが集まって活動している会『自然遊びわかばの会』が千葉県と協働で運営している。ひとりひとりの「やってみたい！」を支えるには、たくさんの地域の大人たちの手や見守る目が必要なので、プレーリーダーの方がおられ、このプレーリーダーは遊びの（指導者）ではなく、いつも子どもの目線に立って「やってみたい！」を実現できるように考える人のことで、人と人をつなげたり、相談にのったり、遊びをしかけたり、注意を払ったり、遊び場をつくる大人の輪を広げたり、ケガや困った時の対応をしたりと色々な役割を持っている。

5つの大切にしたいこととして、自分の責任で自由に遊ぶ 子どもはのびのびと遊ぶことにより、自ら考え判断する力をはぐくんでいきます。自分達でつくる「遊び場」だから危険についても自分で考える。ひとのせいにはしない。人との出会いとふれあい「遊び場」で出会う年齢を超えた友達。子どもも大人も一緒に楽しい時間を過ごすことで、仲間の幅が広がる。自然の豊かさを体験する。草の上に寝そべったり、木に登ったり、落ち葉にうもれたり、森からの贈り物を使った遊びを通して、自然の力を発見したり、感じたりする。工夫する楽しさ。土や木や水など、森にはたくさんの資源があります。みんなの「やってみたい！」を受け止めてくれる「遊び場」だから、自分で工夫して遊ぶ楽しさがいっぱい味わえる。地域で支えてともに育つ。自分達の「遊び場」だから、自分達で考えて、自分達で決めて、自分達で支えていきます。遊び場づくりを通じて、子どもも大人も育ちあいます。と表現されていますが、この5つの内容どおりの何とも羨ましい、自然に恵まれた誰もがのびのびと遊ぶことのできる、素晴らしい公園である。地域の人たちの深い理解と協力も得られたことにより、成り立っている。人に言われてする遊びでなく自分自身が考えてする遊びなので、勿論支え手は絶対必要ですが、たとえば人に言われて木に登るのと、自ら木に登るのとでは、ケガするリスクは違うらしく、自ら木に登る方が断然にリスクは低いとのことでした。繰り返しになりますが、『自分の責任で自由に遊ぶ』をモットーにしている素晴らしいプレーパーク『子どもたちの森公園』でした。

## 建設常任委員会視察報告

ざこ宏一

### 静岡市膜ろ過処理について

和田島浄水場取水施設は、昭和52年3月に日量10000立方mの取水量を完成された。そして地下水をポンプで汲み上げ、水をきれいにして市民に配水するために、平成19年に膜ろ過棟を増設された。この施設内のシンボルである愛泉蔵と云う、お酒の徳利に似ている高さ43mもある配水池に貯蔵され、それぞれの地区に配水管を通して自然の圧力で配水されています。膜ろ過の材質はセラミックで、小口径は1万分の1ミリで、その小さな穴で不純物を完全に除去している。特長は強度が高い・寿命が長い・リサイクルできることです。急速ろ過と比べても、建設費および維持管理費の面で膜ろ過が有利になっています。

### 吉川市美南地区について

吉川美南駅設置事業については、飽和状態にある駅周辺の緩和や、強風・豪雨などによる武蔵野線の輸送障害の解消と共に、新たな市街地の形成や都市交通体系の整備、経済・産業活動の場の構築など、将来を見据えたまちづくりの核施設として、吉川美南駅を新設。総額67億円のうち市負担は、10億円で済んだのです。JR東日本工事事務所と、新駅設置等の協定を平成21年に締結。平成24年に吉川美南駅が開業された。駅舎も素晴らしいが周辺のまちづくりも、駅前ひろばも多くあり、住宅地、学校も適切に配置され今後の西宮市のまちづくりの参考になりましたが、土地の広さの違いには大いに考えさせられました。また人口も増え土地も高騰したようです。

### 葛飾区の地区計画について

まず驚いたのは、葛飾新宿6丁目の説明の時に、呼び方を「にいじゅく」と云われたので、それはしんじゅくでは、わたしの勉強不足で、東京には、2か所の新宿がありました。三菱製紙株式会社中川工場(約18ヘクタール)の移転に伴うこの土地を核とする、にいじゅく6丁目地区の新しいまちづくりや、地球環境問題の顕在化など社会的背景を踏まえて平成20年に葛飾北部地域水と緑のネットワーク構想が作成され、その中には、にいじゅくみらい公園・学校・避難場所・新たな歩行者環境・動線の改善・災害時に周辺市街地からのアクセスにも考慮した道路網も形成され善きまちづくりです。

### 千葉市立子どもたちの森公園について

3000平方mの中にたくさんの樹木が有り、そのテーマは、1 自分の責任で自由に遊ぶ 2 人との出会いとふれあい 3 自然の豊かさを体感する 4 工夫する楽しさ 5 地域で支えて共に育つ。この項目の如くその運営も自然の中で、多くの子供たちが泥んこになるのも構わず、（雨が降っていたので）無邪気にわたしも一緒になって大いに時間も忘れ楽しみました。公園の在り方を垣間見た気持ちに成りました。



# 委員会行政視察報告書

議員氏名 白井啓一

調査の期間 平成 26 年 (2014 年) 10 月 29 日 (水) ～31 日 (金)

調査先及び	静岡県静岡市	膜ろ過処理について
調査事項	埼玉県吉川市	吉川美南駅設置事業について
	東京都葛飾区	新宿六丁目地区地区計画について
	千葉県千葉市	プレーパーク事業について

## □静岡市 膜ろ過処理について

現在、静岡市の浄水場は 12 施設あるそうで、今回視察させて頂いたのが市内で 4 番目に大きい和田島浄水場であります。

和田島浄水場は、緩速ろ過施設の導入を検討されていたそうですが、用地取得が難しく、整備が遅れていたが、テロ対策、クリプト対策などの安全面から早急な対応が求められ、浄水方法の変更認可を得て用地取得が不要で現在の敷地内に設置できる膜ろ過方式が導入されたそうであります。

結果的には建設費や維持管理費の面でコストが安くなり良かったと思います。本市で初めて導入されたということで戸惑いもあった様ですが、今は問題はないそうであります。

今後の水需要は減少傾向が継続すると予想され、施設の更新時期に併せた統廃合や小規模化等が求められている中、浄水場用地を新たに取得することが難しくなっており、狭い用地で浄水出来る膜ろ過方式は、導入を検討してもいいのではないかと思います。

和田島浄水場の施設内のシンボルである配水池（愛泉蔵）に安全できれいな水が貯蔵され、配水されています。外観が徳利に似て、酒造りに欠かせないきれいな水を想像させられる大変すばらしい施設だと思いました。西宮市に合うのではないかと思います。

## □吉川市 吉川美南駅設置事業について

新駅設置の目的として、吉川駅周辺の交通渋滞の緩和や災害等における鉄道輸送障害の解消、経済・産業活動の場の構築など、市の将来を見据えたまちづく

りの核施設として「吉川美南駅」を設置しています。

鉄道に何かあっても新駅で折り返し運転ができる様になっています。

乗降客は、平成 24 年 3 月 2000 人から現在 5000 人に増え、計画的な土地利用、子育てに特化したまちづくりを推進し、人口も 1 年間で 1.260 人増加しています。

駅の東口と西口を結ぶ自由通路は便利だが、今後の維持・管理は大変だと思えます。公共施設も整備され若い人も入って来ると思われ、安心して子育てができるまちづくりが大事になるのではないかと。

#### □東京都葛飾区 新宿六丁目地区地区計画について

新宿六丁目地区において、三菱製紙中川工場の移転に伴う工場跡地を中心にした新たなまちづくりを進めるため、土地利用や都市基盤の考え方を示す「新宿六丁目地区まちづくり方針」を策定しています。

新たな文化を創り出す拠点づくりを目標に、新たに大学誘致の実現・都市再生型公園の整備を追加し、地域の活力を生み出せるよう計画をされている。

水と緑のネットワーク構想に基づき、地域の文化・歴史に深くかかわり、生活の質を高める拠点公園として、にいじゅくみらい公園を整備している。

公園内には、かつての葛飾の製紙産業を記念する地球釜。パーゴラと星降る広場、黒と白色の自然石を敷き詰めた夢舞台。子ども向けの遊具や健康遊具施設も充実しています。ナイター設備があり、人工芝の多目的広場、テニスコートは車椅子テニスにも対応できるようになっています。区民に開放する教養施設として、大学が設置する図書館があります。

災害備蓄品などを収納する倉庫には、停電時に電気を供給する非常用発電機や太陽光発電施設、トイレなどのへやがあり、園内には防災トイレ用マンホール約 100 基のほか、炊き出し用かまどや洗い場などが設置されている。羨ましい限りである。南海トラフが想定される中、防災公園の必要性は高まるばかりである。西宮市でこのような公園を整備できるのは、アサヒビール工場跡地しかないのではないかと。

#### □千葉市 プレーパーク事業について

子どもたちが自然体の姿で自然の中で、自由に遊びまわれる環境づくりは、絶対に必要であると思えます。千葉市の子どもたちの森公園を見学させて頂きましたが、ちょうど保育園の園児が来ていて土まみれになりながら、楽しく遊んでいたのが印象的でした。市民団体が、市から委託され運営されていますが、11 月

から NPO 法人として携わる様です。

西宮市にも現在 2 か所あり、千葉市からも視察に来られたそうです。

放課後の子ども居場所づくりに活用されてもいいのではないかと思います。

高校生になっても遊びに来るそうで、新たなプレーリーダーとして育ててくれれば、継続的な運営が可能になり充実した運営管理が出来るのではないかと思います。西宮市でも土地の有効活用として、プレーパーク機能がある公園が増えればなと思います。新たなプレーリーダーを開拓、確保するためにも市内にある大学とも連携をふかめ人材を育成できればと思います。

## 委員会所管事務調査感想・意見等

委員氏名 田中 正剛

調査の期間	平成 26 年 10 月 29 日 (水) ～31 日 (金)	
調査先及び 調査事項	静岡市	・膜処理浄水場について
	吉川市	・吉川美南駅について
	葛飾区	・新宿六丁目地区計画について
	千葉市	・子どもたちの森公園について

### ◇意見・感想等

#### ■静岡市

#### ○膜処理浄水場について

##### <視察の目的>

将来的には、自己水源を確保するために、鳴尾浄水場と丸山浄水場を残す方針に変わりないが、現在の取水量の伸びの鈍化と将来の人口減少を鑑み、現在よりも取水量を減らすことが検討されている。将来の鳴尾浄水場及び丸山浄水場の再整備にあたって、施設のダウンサイジングも検討されている中で、膜処理施設が有効であるのかどうかを現場で確認することを目的に視察に臨み、和田島浄水場を見学した。

##### <取組みの概要>

静岡市には浄水場が 12 施設あり、自己水源比率は 100%である。今回視察した和田島浄水場は、1 日あたり 1 万 m<sup>3</sup>の浄水能力を有し、原水は鳴尾浄水場と同様に地下水であり、濁度も非常に低く、塩素滅菌処理のみで対応できていた。しかし、クリプト対策が求められ、施設整備を検討していた平成 18 年当時は、膜処理施設の事例が少なく、緩速ろ過施設の導入を検討していたとのことである。しかし、緩速ろ過施設を整備するためには、既存の施設面積では不足するため、隣接する土地の買収を模索していたが、土地所有者の理解が得られずに買収に失敗し、やむを得ず、コンパクトな膜処理システムを採用したとのことであった。

膜処理施設は、セラミック膜を使用している。強度が高く洗浄がしやすい。耐久性も高く、リサイクルも可能というメンテナンス上の特長を持つ。遠隔操作による管理が可能で、週に4回程度の現地巡回で済み、かつ、機械操作であることから高度な経験を要しないため、民間事業者へ委託することで、管理費を抑えることが可能である。

緩速処理の場合、施設のメンテナンスに職員の経験値に基づく技術が必要だそうで、委託することが難しく人件費等の管理コストが高くつくが、膜処理であれば、機械管理が可能となり、電気代を除くメンテナンス費用としては、年間約500万円程度であることから、結果的には膜処理施設にしてよかったとのことであった。なお、施設整備の工期は1年間で、請負金額は約8億3000万円、浄水場の維持管理にかかる費用は、巡回業務にかかる経費が約260万円、電気代が約1200万円、薬品費が約160万円である。

#### <意見・感想・提言>

##### ◎取水源が地下水の場合は、膜処理システムが有効である

想像以上にコンパクトな設備であった。取水量が多くても、対応が可能なシステムである。原水の濁度が低い場合には、初期投資、メンテナンスともに有効な施設である。非常にコンパクトな施設整備が可能となるため、本市の浄水場の再整備にあたっては、現有の土地を売却することにより財源を確保することも可能であると考えられる。

また、鳴尾浄水場の再整備については、武庫川の河川改修による取水源の塩水化や津波被害を鑑みると、面積が狭い武庫川取水場での浄水場整備も検討可能と考えられ、さらには、遠隔での管理並びに民間事業者への委託も可能となることから、一層の管理費の抑制も可能と考えられ、有効な施設である。

なお、北部地域の自己水源の確保の観点から拠点となる丸山浄水場については、表流水を取水しているため、不向きであると考えられる。

##### ◎自己水源の確保のために余裕を持たせた施設整備が必要である

和田島浄水場の浄水の能力については、一日あたり1万 $\text{m}^3$ であるが、実際の配水量は、5600 $\text{m}^3$ だそうである。今後、人口減少が見込まれ、水需要の減少が見込まれるが、表流水を水源とする施設の災害による一時取水停止や配水量の抑制などを勘案して、現有の能力を確保しておくことが適正としている。

本市においては、南部地域では表流水を水源とする阪神水道企業団からの取水に90%以上頼っている。浄水施設のダウンサイジングを検討する際には、危機管理の観点から、地下水を水源とする自己水源を一定確保するために余裕を持たせるべきと考える。

◎10年後には、さらに有効な浄水システムが開発されている可能性がある

鳴尾浄水場の施設再整備は、まだ数年先のことであり、さらに技術が向上する可能性があることから、今後も調査研究が必要である。

## ■吉川市

### ○吉川美南駅について

#### <視察の目的>

本市では、主に瓦木支所管内の住民の利便性の向上が期待される阪急武庫川駅新設に向けて調査を進めている。新駅設置の検討が前進すれば、請願駅となることが予想される。そこで、近年に請願駅として新設された吉川美南駅の設置の効果と設置後の負担について研修できることを期待して、現地視察した。

#### <取組みの概要>

もともと吉川市は、市域の大半が農林地で、市街化区域が市域の22%であり、鉄道駅も1駅のみであった。そして、昭和61年にJRの武蔵野操車場が廃止され、その跡地を活用したまちづくりを検討するにあたり、市内の交通分散化のために新駅を請願したとのことであった。周辺はいまだ更地が多い。市域の70%が市街化調整区域という環境は、西宮市とは環境が全く異なっている。隣接市の三郷市と連携して行政が主導して開発構想が策定され、土地区画整理事業は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構と国鉄清算事業東日本支社が施行者となっている。昭和61年当初は、1000haもの開発構想であったが、その後、操車場跡地周辺の一体的な整備と計画の早期実現性を考慮して平成4年に616haに開発構想面積が縮小され、平成5年にはそのうち400haが先導区域に設定され、さらに平成10年に先行事業区域として93haに縮小され、平成17年には、財政健全化のために30haを先行整備し、残りの63haが3年間凍結されることになった。当該地区では、民間のハウスメーカーとURにより、戸建て住宅が279区画、マンションが969戸開発され、イオンタウンの建設も計画されている。この操車場跡地地区の開発と並行して、平成2年から平成28年の事業計画期間で、隣接する82ha（計画人口9200人、約2400戸）の特定土地区画整理事業も進められている。駅の整備に関しては、合計67億円の事業で、市の負担は42億円、JRは武蔵野線の引き込み線の建設を希望していたため、その分25億円を負担することになったそうである。市の負担分のうち、さらに鉄道運輸機構に応分の負担を求めて駐輪場の整備など約29億円を負担してもらうことになり、残りの12億円の負担に関しても、自由通路建設にかかる国の交付金として約3億円を活用するなど、市の負担軽減が図られている。JRにとっても、交通障害の対応が可能となる引き込み線の設置や周辺のまちづくりに

よる新たな需要の掘り起こしというメリットがあったため、新駅設置の話が進んだ様子であった。JRは一日の乗降客を23000人と見込んでいるようで、駅設置初年度は2000人、現在は5000人を超えるまでになっているそうである。残された63haの開発が進めば、さらに乗降客が増加するとみられる。また、駅舎はJRが管理、自由通路のみ市が負担し、年間の維持費は約500万円とのことであった。メンテナンスに関しては、請願駅ということでの特別な費用負担はない様子であった。

新駅設置による効果としては、当然のことながら人口増加に寄与しているとのことで、子育て世代が増加しているそうである。土地の評価額も上昇し、当初3000万円程度(45坪程度)であった戸建て住宅が、同規模でも5000万円で分譲されているとのことであった。固定資産税の増収額は不明であったが、相当の税收効果がある様子であった。経済効果として、国土交通省は投資額の10倍程度と試算しているそうである。バス交通は、まだ駅の開業にはついて行っていない様子であった。

#### <意見・感想・提言>

##### ◎新駅を請願するにあたっては、周辺のまちづくりと交通政策とセットで実施すべき

今回の視察を通じて、阪急武庫川駅を請願するにあたっては、道路整備やバス交通、自転車交通政策など市の交通政策を整理し、駅へのアクセス道の確保、駐輪場や駅前広場など駅に必要な都市基盤の整備が可能となるよう、周辺地区のまちづくりと一体的に検討するべきと考える。

##### ◎費用対効果を十分に検討してから事業化すべき

今回の視察先では、JRの都合によるまちづくりの一環での新駅設置であったことから駐輪場の整備すら鉄道・運輸機構の負担となるなど、市の負担が抑えられている。本市においては、請願駅でなかったさくら夙川駅の設置の際ですら、駅前広場も設置されず、駐輪場の整備など市も大きな負担を強いられた経験を持つことから、それらの経験も踏まえて、設置後の駅舎のメンテナンスにかかる費用負担を求められることのないようするとともに、イニシャルコストに対する市の負担を抑制するよう検討を進めるべきである。また、視察先では、駅設置と開発によって子育て世代が増加したとのことであったので、本市においても、現状の教室不足などの教育環境と将来の児童推計を十分に勘案し、新たな学校施設整備が必要となるようなことのないよう、新駅の設置時期も検討するべきと考える。周辺住民の住環境の向上効果とともに、市にとっての費用対効果やその他の効果、住民に対する影響も十分に検討、整理し、住民の合意のもと請願するべきである。

本市と異なり、新駅設置は住民の要望による施策ではなく、新たなまちづくりを進めるうえでの市の政策上のことである。阪急武庫川駅の請願とは条件があまりにも異なっていることから、期待していたような研修とはならなかった。むしろ、当該事業は、アサヒビール西宮工場跡地のまちづくりの参考となる取組みであると感じた。今回の研修を通じて、アサヒビール跡地のまちづくりに関しては、市が積極的に関与して、新駅設置も含めて一体的なまちづくりを計画するべきであったと改めて感じた。今回の視察の目的である新駅に関する研修目的からそれるため、これ以上の意見は控える。

## ■葛飾区

### ◎新宿六丁目地区計画について

#### <視察の目的>

現在進められている、アサヒビール西宮工場跡地の地区計画を検討するにあたって、参考とするため視察した。

#### <取組みの概要>

三菱製紙株式会社中川工場（約18ha）の移転に伴い、新宿六丁目地区は、都市計画マスタープランでは「文化・レクリエーション拠点」として位置づけられ、再開発が進められている。本市とは異なり、URが跡地をすべて取得し、区とともにまちづくり方針を策定している。大学の都心回帰の傾向にあったことから、市は大学誘致構想をリーディングプロジェクトとして位置づけ、その分の敷地を先行取得した。誘致された大学は東京理科大学である。土地の取得にも国の補助金が活用されていた。また、平成25年には葛飾にいじゅくみらい公園が開園し、大学図書館も災害時は避難所として活用でき、ヘリポート建設も検討され、仮設トイレ用マンホールの設置もされており、都の「震災火災時の避難場所」として指定されている。事業費は、土地の取得費用等で267億円（46万円/m<sup>2</sup>）、公園整備費として18億円（いずれも国庫補助金を含む）を要している。その他の敷地については、住友不動産と大成有楽不動産によって開発されることになっている。

再開発促進区に指定することで、公共空地が義務化され、良好な住環境形成の実現が可能となり、建築を始める場合にも、事業者から自治体に企画提案書の提出が義務化され、その後、地区整備計画を策定し、地区計画を変更する必要があるため、一定、市の関与が可能となり、民間主導の開発計画でも乱開発が防げることが分かった。



### <意見・感想・提言>

#### ◎都市計画マスタープランにおける当該地区の計画を見直すべきである

アサヒビール西宮工場跡地に関する部分の総合計画の見直し作業が進められているが、並行して、民有地とはいえ、都市計画マスタープランの見直しも進め、アサヒビール西宮工場跡地の都市計画を定めるべきである。

#### ◎市がまちづくりを誘導する施策として、再開発促進区に指定して地区計画を誘導するべきである

アサヒビール西宮工場跡地に関しても、再開発促進区に指定して、民間事業者との協働の下で、市の都市計画に沿って、まちづくりを進めるべきと考える。

#### ◎区域内の道路については、十分に余裕のある道幅を計画するべきである

新宿六丁目の地区計画では、幹線道路が14m～17mと十分に余裕を持ったものとなっており、区画道路ですら、12mの道幅が確保されている。本市のアサヒビール西宮工場跡地に関しては、幹線道路に当たる道路ですら10mしか計画されておらず、不十分であると考え。また、2号線に交通負荷をかけることのないように、敷地内の幹線道路に関しては、道幅を最低でも12mは確保するべきと考える。

## ■千葉市

### ○子どもたちの森公園について

#### <視察の目的>

子育てするなら西宮を標榜する本市にとって、旧食肉センターの跡地の暫定利用として整備されている「みやっこキッズパーク」の今後のあり方を検討するとともに、今後の子どもたちの健全育成を目的としたプレーパークの整備の是非について考えることを目的として視察に臨んだ。

#### <取組みの概要>

子どもたちの森公園は、平成9年度に「子どもたちのワンダーランド基本構想」が策定され、平成19年度に開設された。基本構想から開設までに10年を要している。市営動物園に隣接する森3000㎡を市が購入して整備された。地域住民を核とした市民団体が運営を担っている。整備費は、用地買収費として、9000万円、公園整備費として約6000万円、運営システム構築等で約4000万円、合計約2億円を要している。この投資額については、政令指定都市と中核市の財政力の違いを考慮する必要がある。年間の開園日数は238日、開園時間は10

時から 17 時で、子どもの興味や関心を引き出し、時には子どものよき相談相手にもなるプレーリーダーと呼ばれる大人を 1 日 2 名体制で委託しているにもかかわらず、年間 440 万円の委託料しか市は負担していない。子どもたちが自然の中でのびのびと遊び、学ぶことができる場として、また、子どもたちの居場所として活用されているとのことであった。手作りの遊具も設置され、子どもたちが工夫して遊べるような環境にもなっている。年間の利用者数は、平成 25 年度で大人が 4762 名、子どもが 10858 名となっており、開園以降、概ねこの程度で安定して利用されている。千葉市には、当該公園のほかに 4 か所のプレーパークを整備している。

当日はあいにくの小雨ではあったが、近隣の保育所の子供たちが遊びに来ており、子どもたちが遊ぶ様子とプレーリーダーの役割を見学することができた。また、運営を委託されている市民団体の方も来て丁寧に説明してくれたが、公園とそこで遊ぶ子どもたちに対して、非常に愛着を持って運営に関わられている様子が伝わってきた。

#### <意見・感想・提言>

##### ◎プレーパークの整備に当たっては、立地や交通環境も勘案すべきである

1 日あたりの子供の利用者数は 45 名程度であり、公園の規模と整備事業費を勘案すると、また、本市のみやっこキッズパークの利用者数（平成 25 年度実績で、子ども 14678 名、大人 9534 名）と比較しても、利用者数は少ないと感じた。これは、立地と関係しているものと推測される。本市の場合、北部地域や山間部の活用も考えられるが、本市でプレーパークとして位置づけてみやっこキッズパーク以外に整備する際には、立地や交通環境も十分に勘案して検討しなければならない。

##### ◎「(仮称)子どもの居場所整備計画」を策定すべきである

みやっこキッズパークは、暫定利用ではなく、本格利用として存続すべきと考えるが、本格利用として存続するにあたっては、その他、学童期の子供たちの放課後の居場所事業や就学前児童の遊び場作りなど、子どもたちの居場所遊び場作り事業を一元的かつ計画的に進めるために、計画策定を通じた検討が必要と考える。

##### ◎「子育てするなら西宮」としてプレーパークをもっと整備すべき

財源には配慮が必要であるが、民間との協働の下で、子どもたちにこうした自然を活用したスペースを整備する必要性を以前から感じてきた。今回の視察を通じて、子どもの幼児教育情操教育の観点から、こうした自然を活用したプ

レーパークを整備する有効性を改めて感じた。本市においても、子育ての観点から、子どもたちの五感を刺激できる居場所をさらに整備するべきと考える。市長は、総合的な放課後の子どもの居場所づくりを進めるとの方針を示されている。そのことを鑑みても、みやっこキッズパークは、当然存続するべきであり、市内に存在している民有地も含めて、既存の森や砂浜、川、などの自然や既存の都市公園を活用したプレーパークを数か所整備し、プレーリーダーを配置するなどして、計画的に環境を整備することを検討してはどうかと考える。

**◎大学が多数ある街の特性を生かして、大学生を活用したプレーパークを運営する仕組みを構築するべきである**

みやっこキッズパークの事業推進を支えてくれているボランティアの方々の高齢化が課題となっているとのことである。プレーパークの運営にあたっては、地域住民との協働のみならず、本市の場合は、市内の大学との協働のもと、大学生の活用も模索するべきと考える。

以上、視察報告並びに意見とする。

## 委員会所管事務調査感想・意見等

委員氏名 田 中 良 平

調査の期間 平成 26 年 10 月 29 日(水)~10 月 31 日(金)

### 調査先及び調査事項

静 岡 市：膜ろ過処理について（和田島浄水場）

吉 川 市：吉川美南駅設置事業について

葛 飾 区：新宿六丁目地区地区計画について

千 葉 市：プレーパーク事業について（子どもたちの森公園）

平成 26 年 10 月 29 日(水)静岡市

#### \* 膜ろ過処理について（和田島浄水場）

本市は現在、阪神水道企業団、兵庫県営水道、鳴尾浄水場、丸山浄水場の四箇所から給水している。そのうちの鳴尾浄水場、丸山浄水場が自己水源といえるものであるが、その他の広域的水道供給と比較してコスト面でのデメリットや、その施設の老朽化がすすんでいることからその存廃も話題になっている。一方、水需要は減少していく傾向にあることや、災害時の供給を考えて一定の自己水源を確保すべきとの考えもある。今回は施設の整備と浄水処理のコストの面から自己水源を維持していく可能性を追求するための視察であると考えている。鳴尾浄水場は紫外線処理により、丸山浄水場は急

速ろ過（薬品による凝集沈でん・砂ろ過による処理方法）をとっているが、和田島浄水場は膜ろ過処理である。セラミック膜ろ過（無機膜）を採用しており、薬剤を入れたり、沈でんのための池が不要であるため少ない敷地で整備ができる。また、自動運転が容易なため和田島浄水場では、遠隔操作を実現していて常時職員が張り付いている必要がないことなどからコスト面（浄水コスト）でも有利であることが分かった。

今後、本市においても導入する利点は多いと考えるが、災害時の活用については、誰がどのように活用するのかを計画し、例えば一定の大規模災害を想定し、どこからどれだけの量必要になるのか。いかに求められるところに求められる量を供給できるのかを想定し、災害時計画を策定するべきである。災害時の備えとなるならば自己水源を確保することは意義のあることであると考えている。

平成 26 年 10 月 30 日(木)吉川市

\* 吉川美南駅設置事業について

吉川美南駅整備は広大な武蔵野操車上跡地活用とその周辺地域（田畑）の区画整理事業を合わせ、武蔵野操車場跡地に JR 新駅を整備してその周辺のまちづくり計画である。広大な敷地に一から設計していくまちを作っていくこの計画は、そのまま本市に当てはめ

て参考になるものではない。阪急武庫川新駅に当てはめて参考になるものではない。施設設置の費用は約 6.3 億円で、このうち JR 負担分が約 2.4 億円、吉川市負担分が約 3.8 億円とのことである。様々な状況によってことなるのだろうが、請願駅の負担割合の一例である。

周辺開発において、戸建て住宅の開発地域で景観協定を締結し、住民らが建築や緑化、照明などについて細やかなルール。瓦屋根の色や外壁の色、電灯やフェンスを取り決め、統一感ある街並みを実現している。これによって付加価値の高い住宅街を形成しているのは非常に興味深かった。

平成 26 年 10 月 30 日(木)葛飾区

\* 新宿六丁目地区地区計画について

新宿六丁目地区には三菱製紙(株)中川工場(約 1.8 ha)の移転に伴って工場跡地を核としたまちづくりを視察した。

計画は、工場跡地約 18.2ha 工場・研究所約 12.7ha 道路・神社など約 2.7ha の約 33.6ha が対象で都心から直線距離で約 13km、JR 常磐線金町駅より約 800m に位置している。

新たな生活拠点の形成 良好な住環境の形成 地域の防災機能の向上 個性と魅力ある町並みの形成 地域参加型の街づくりの推

進 大学誘致の実現 都市再生型公園の整備の七つの方針のもとに整備地区内に六つのゾーンに分けて地区計画をかけ統一的な開発誘導を実現。これにより歩道状空地や広場などを都市計画的に位置付けることができ、再開発促進区内の街区では公共空地も義務付けられるため、良好な住環境形成の実現している。

低中層住宅ゾーンには集合住宅 117 戸、戸建 32 戸、中高層住宅ゾーンには集合住宅 840 戸整備。文化・教育ゾーンには東京理科大学を誘致、研究棟・講義棟・管理棟・実験棟・体育館を建築。文化・教育ゾーンに隣接する都市計画公園には葛飾区が図書館を整備し、市民と大学で共用できるものとしている。一方東京理科大学一帯約 35.6ha を「震災火災時の避難場所」として東京都から指定を受けている。

民間と自治体の共同のまちづくりに地区計画を用いることは、地区整備計画を策定する段階で十分に協議をし、地区計画をかけることによってその実現が担保されるという有効な方法のひとつである。

平成 26 年 10 月 31 日(金)千葉市

\* プレーパーク事業について（子どもたちの森公園）

千葉市のプレーパーク事業は、子どもの遊び場・居場所を提供するだけでなく、安心して自由に遊ぶことができる場を提供するため

NPO 法人に事業委託している。

プレーリーダーやスタッフによって子供たちの見守りや学ぶことができる場を提供している。

しかし、プレーリーダーやスタッフの安定的な確保や、子供たちの見守りをできる人材の育成が課題となる。学生や高齢者に参加してもらうシステム作りが必要であると感じた。

千葉市の子供たちの森公園は住宅地から離れていない良い立地で広大な公園であった。本市の市街地の公園整備の必要性を感じた。



# 委員会行政視察報告書

委員氏名 谷本 豊

調査の期間 平成 26 年（2014 年）10 月 29 日（水）～10 月 31 日（金）

調査先及び 静岡市 膜ろ過処理について  
調査事項 吉川市 吉川美南駅設置事業について  
葛飾区 新宿六丁目地区地区計画について  
千葉市 プレーパーク事業について

**静岡市** 膜ろ過処理について 人口 716 千人 面積 1,411.93 km<sup>2</sup>

静岡市には 12 施設の浄水場があり、自己水源比率は 100%です。

視察に訪れた和田島浄水場は市内で 4 番目に大きい施設で、実際の配水量は 1 日約 5600 m<sup>3</sup>、市内の水供給量の約 2.4%（平成 25 年）です。そして市内で最大規模の谷津浄水場から遠方監視と操作を行って一週間に 4 回程度の巡視を実施しています。又停電対策としては、自家発電設備で対応しており、水源は井戸であるため安定していて、興津川流域の配水を担当しています。

平成 18 年当時の和田島浄水場は、浅井戸 2 井から取水し塩素滅菌処理のみの浄水場であり、緩速ろ過施設の導入を検討していましたが、用地取得の行き詰まりから整備が遅れていました。しかしながら、テロ対策やクリプト対策などの安全面から早急な対応が求められていて、浄水方法の変更認可を得て用地取得が不要で現在の敷地内に設置できる膜ろ過方式の導入を決定しました。又、無機膜については、平成 18 年 6 月から 8 月にかけて、「和田島浄水場膜ろ過浄水処理施設建設検討委員会」を 6 回開催し、結果的に無機膜に決定しました。当時の検討資料では、建設費及び維持管理費の面で膜ろ過が有利でした。しかしながら、静岡市で初めて導入する技術なので詳細については不明な点も多かった部分もありましたが現在において特に問題はありません。

今後給水戸数や 1 人 1 日平均配水量の減少などにより、水需要は減少傾向が継続すると予想されていて、施設の更新時期に併せた統廃合や小規模化等が求められていますが、施設統廃合に係る計画の実施については、更に時間を要するものと考えられています。又表流水を水源とする施設について豪雨や悪天候時には、濁度の上昇に伴う一時的な取水停止や取水量の抑制による運転管理を行う必要があります。したがって災害時等のリスク管理の観点から総合的に施設保有能力を勘案すると、現有能力を確保していくことが適正なものとして認識されています。

(当局への提言)

西宮市は、今後老朽化した浄水場等施設の更新整備を予定しています。施設等は減らしていく方向性です。したがって元々ある施設に数年後和田島浄水場のような膜ろ過処理施設を導入していくことがのぞまれます。

**吉川市** 吉川美南駅設置事業について 人口 65 千人 面積 31.62 km<sup>2</sup>

飽和状態になりつつある吉川駅周辺の交通渋滞の緩和や、強風・豪雨などによる武蔵野線の輸送障害の解消とともに、新たな市街地の形成や都市交通体系の整備、経済・産業活動の場の構築など、吉川市の将来を見据えたまちづくりの核施設として、「吉川美南駅」を設置しました。実際、「吉川美南駅」は平成 24 年 3 月 17 日に開業しました。

開業当時は 1 日約 2000 人の乗降客でしたが現在は 1 日約 5000 人と順調に増えています。そして若い世代も増え、地価も上昇しています。複合拠点地として商業・娯楽・文化・教育などを担っています。又「育くまち(いくまち)」として子育てに特化し、ヒトとともに育っていくマチを目指しています。

(当局への提言)

「阪急武庫川駅」を設置するならば「吉川美南駅」のように駅前広場・駐車場等の施設計画を明確にしてほしいと思われまます。又「吉川美南駅」のように広い駅前広場を利用してジャズナイトを開催したり等、地域活性化・地域貢献を考慮してほしいと願います。

**葛飾区** 新宿六丁目地区地区計画について 人口 442 千人 面積 34.84 km<sup>2</sup>

葛飾区は、新宿六丁目地区を 新たなにぎわいの創出 暮らしの質を豊かにするまちづくり 地域の個性を活かし育むまちづくり 新たな文化を創り出す拠点づくりをまちづくりの方針としています。元々葛飾区は、将来都市構造を「分散型・多核連携型の都市構造」とし、並立する都市機能集積拠点(駅周辺)や水と緑の拠点(文化・レクリエーション、アメニティ拠点)を道路や鉄道による交通系ネットワーク・水や緑の自然系ネットワークで結び有機的に連携させていくことを基本としています。そして新宿六丁目地区は「文化・レクリエーション拠点」として位置付け、大学を中心とした住宅、文化、教育、交流、医療福祉など複合的な都市機能の導入と合わせ、葛飾にいじゅくみらい公園を核とした良好な住環境の形成と防災上の向上を図ることとしています。実際今年の 4 月に葛飾にいじゅくみらい公園が開園し、5 月には東京都における震災火災時の避難場所として東京理科大学一帯約 35.6 ha が新規の避難場所として指定されました。そして公園を学校に隣接して設置し、既存道路の歩行者環境の改善や新たな歩行者動線の確保を行いました。又再開発促進区における主要な公共施設として地区幹線道路や主要区画道路を整備して、災害時に周辺市街地からのアクセスにも配慮した道路網を形成しました。新宿六丁目地区計画は、地

区全体を一体的にとらえ、統一的なコンセプトでの開発誘導が可能となり、又歩道状空地や広場などを都市計画的に位置付けることができ、再開発促進区内の街区では公共空地も義務化されるため、良好な住環境形成の実現が可能となりましたが、再開発促進区内の街区で建築を始める場合、事業者から自治体に企画提案書を提出し、新たに地区整備計画を策定、地区計画を変更（都市計画変更）する必要がある、着工までに一定の時間が必要となることが課題です。

（当局への提言）

「アサヒビール跡地」を考えていく時、「新宿六丁目地区計画」のようにしっかりとした計画的なまちづくりをして防災上の観点からも道路の整備・公園の開園を目指してほしいと考えます。

**千葉市** プレーパーク事業について 人口 961 千人 面積 272.08 km<sup>2</sup>

プレーパークとは、「自分の責任で自由に選ぶ」をテーマとする遊び場であり、子どもたちは、「どろんこ遊び」・「穴掘り」・「小屋作り」・「火を使った遊び」・「廃材を使った創作」など一般的な都市公園では禁止しているものも含めて、自由な遊びを行える場所のことです。そして子どもの視点にたって、子どもの相談相手として、一緒に遊びの工夫に参加してくれる大人のプレーリーダーが常駐しています。遊びは、このプレーリーダーの見守る中で行われるというのがルールです。視察先の千葉市ではプレーパーク事業を「子どもたちの森公園」で実施しています。この「子どもたちの森公園」は平成 19 年 4 月 27 日に開園しました。そして「子どもたちの森公園」で大切にしたい 5 つのことは 自分の責任で自由に遊ぶ 子どもはのびのびと遊ぶことにより、自ら考え判断する力をはぐくんでいきます。自分たちでつくる“遊び場”だから危険についても自分で考える。ひとのせいにはしないよ！ 人との出会いとふれあい “遊び場”で出会う年齢を超えた友達。子どもも大人も一緒に楽しい時間を過ごすことで、仲間の幅が広がります。 自然の豊かさを体感する 草の上に寝そべったり、木に登ったり、落ち葉にうもれたり…。森からの贈り物を使った遊びを通して、自然の力を発見したり、感じたりします。 工夫する楽しさ 土や木や水など、森にはたくさんの資源があります。みんなの「やってみたい！」を受け止めてくれる“遊び場”だから、自分で工夫して遊ぶ楽しさがいっぱい味わえます。 地域で支えてともに育つ 自分たちの“遊び場”だから、自分たちで考えて、自分たちで決めて、自分たちで支えていきます。遊び場づくりを通じて、子どもも大人も育ちあいます。です。開園から約 7 年半、市民からの要望・意見も好意的なものが多いと聞いています。

（当局への提言）

西宮市のプレーパーク事業の状況は、みやっこキッズパーク（芦原町）にしのみや遊び場つくり会（久保町）そして西宮浜総合公園に整備を予定しています。私は西宮市では、先に述べた、大切にしたい 5 つのこのうち、 自分の責任で自由に遊ぶ 人との出会い

とふれあい . の 2 点が特に大切と考えます。大人が「自分は~こう思う」など自分の考えを押しつけず、子ども達の良いところをどんどんほめていってあげてほしいと要望します。つまりプレーリーダーの育成に充分留意してほしいと考えます。

日本には多くの都市があり、その都市には様々な個性・魅力があります。実際西宮市は多種多様な魅力があります。けれど他市の良いところは、どんどん参考にしてほしいと思われます。又様々な所へ行って、様々なヒトに出会うのは良い勉強になります。以前のように職員の随行も復活してほしいと願います。

以上

## 建設常任委員会管外視察報告書

委員氏名 吉岡 政和

調査の期間	平成 26 年 10 月 29 日（水）～31 日（金）	
調査先及び 調査事項	静岡市	・ 膜処理浄水場について
	吉川市	・ 吉川美南駅について
	葛飾区	・ 新宿六丁目地区計画について
	千葉市	・ 子どもたちの森公園について

### 静岡市（膜ろ過方式浄水場について）

将来的には、自己水源を確保するために将来の鳴尾浄水場の再整備にあたって、膜処理施設が有効であるのかどうかを現場施設で確認することを目的に和田島浄水場を見学した。膜ろ過方式とは、セラミック製の膜に原水を通し、濁りや大腸菌、クリプトスポリジウム（病原性原虫）などの不純物を取り除きます。セラミック膜浄水システムの特長としては、①原水の濁度の急激な変動にも安定した処理能力を維持。②沈殿池等が不要なため、狭い用地でも建設が可能。③逆圧洗浄工程も含めた全自動化により無人運転が可能。④セラミック膜の寿命が長く、膜の交換頻度が低い。（清澄水源：20～30年、汚濁水源：15年）⑤水の回収率が高い。（98%以上）⑥単位ろ過量あたりのランニングコストが低い。⑦付帯処理と組み合わせることで、膜ろ過では除去できない溶解性の鉄、マンガン、色度、臭気も除去できるなど、さまざまな原水に対応が可能。等があげられる。また、他方式よりも建設費・維持費ともに静岡市の環境では安価であった。西宮市にこれを導入すると、新たに土地取得するという事になれば土地価格の差で静岡市のような低コストと言えることにはならない。土地取得なしに既存の鳴尾浄水場の敷地範囲で導入するのであれば実現可能な方式となりえると考えます。また、横浜市においては同方式で浄水場施設全体の更新と運営・管理を PFI 方式で実施しています。西宮市にとっても参考になると思います。ただし、鳴尾浄水場再整備の時期はまだまだ先なのでそれまでに技術進歩が見込まれるので、整備時期には更なる調査が不可欠です。

#### ■吉川市（吉川美南駅について）

本市では、阪急武庫川駅新設に向けて調査を進めている。新駅設置の検討が前進すれば、請願駅となり、駅舎建築や駅周辺整備において市が相当な費用負担をする事が想定される。

吉川市と西宮市の大きな相違は、住民から駅設置を要望されて誘致を行う西宮市に対して、吉川市は市がまちづくりの上で新駅が必要と判断し駅設置を行ったという点にある。

吉川美南駅周辺は未開発で駅設置後、住宅やショッピングモールができ新しい街が誕生した。一方、阪急武庫川新駅は駅周辺整備に大掛かりな整備事業が必要になる。吉川市での新駅設置の経済効果は投資額の10倍とのこと。西宮市も駅設置による投資額算出と効果について早々に研究されるべきと考える。

#### ■葛飾区（新宿六丁目区画整理について）

三菱製紙株式会社中川工場（約18ha）の移転に伴い、新宿六丁目地区は、都市計画マスタープランでは「文化・レクリエーション拠点」として位置づけられ、再開発されている。アサヒビール西宮工場跡地とは異なり、URが跡地をすべて取得し、区とともにまちづくり方針を策定している。アサヒビール跡地は民間企業が取得したことにより葛飾区にくらべまちづくりに市のコントロールが効きにくい。都市部にまとまった土地が生まれるケースは珍しく、まちづくりのチャンスとして葛飾区はURと協働した。結果、大学と不足していた公園を一体化、ハザードマップで浸水地域であったため、2mの盛土整備を行い防災面においても整備した。

西宮市においても民間業者と信頼関係を構築しまちづくりに積極的に関わるべきと考える。その上で総合計画・マスタープランを早急に見直して、市が主導したアサヒビール跡地開発を進めるべきである。

#### ■千葉市（子どもたちの森公園について）

子どもたちの森公園は、平成9年度に子どもたちのワンダーランド基本構想が策定され、平成19年度に開設された。市営動物園に隣接する森3000㎡を市が購入して整備された。地域住民と市民団体が運営を担っている。整備費は、用地買収費として、9000万円、公園整備費として約6000万円、運営システム構築等で約4000万円、合計約2億円を要している。年間の開園日数は238日、開園時間は10時から17時で、プレーリーダーを一日2名体制で委託しているにもかかわらず、年間440万円の委託料しか市は負担していない。年間の利用者数は、平成25年度で大人が4762名、子どもが10858名となっており、開園以

降概ね、この程度で安定して利用されている。千葉市には、当該公園のほかに 4 か所のプレーパークを整備している。西宮市の場合は千葉市に比べ予算もないので、同様の方式で整備することは難しい。市の遊休地などを活用したうえで運営も民間に委ねるなどの工夫が求められ、ローコスト且つ持続可能な子供の居場所づくり実現に向けて研究するべきと考える。



センターハウス



自由に遊ぶ近所の園児



プレーリーダー紹介ボード